



Hewlett Packard
Enterprise

HPEのサステナビリティへの取り組み



日本ヒューレット・パッカーード合同会社
2024年9月6日

サステナビリティへの 取り組み

HPEの理解



サステナブルな未来に向けて

HPEの理解 <2040年までにバリューチェーン全体でネットゼロの企業になることをコミット>

<HPEの理解>

- 気候変動の脅威は国際企業として重要課題と認識
- 低炭素社会、その先の脱炭素社会を担うビジネス・テクノロジーリーダーとして活動を推進

<HPEの取り組み>

- 製品・ソリューションの性能を高めつつ、環境影響を最小にするas-a-Service化を推進
- パートナー様と協調し、低炭素技術を活用した製品の開発、生産効率を向上し電力消費量を削減

<取り組みの公開>

- 環境影響の耐性・対応力をさらに強化
- 国際NGOであるCDPやGlobal Climate Actionを通じて活動を公開
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)のリコメンデーション・ガイダンスに従い活動



この活動と進捗は年次レポートである
自社Living Progress Report にまとめ、
第三者の保証の下に公開していきます。

HPEの取り組みと成果

HPEは、独自の視点でサステナビリティの旅を歩みます

中間目標を2030年に設定し、2040年までにバリューチェーン全体でネット・ゼロ企業となるコミットメント

~50%

事業活動における再生可能エネルギーによる電力調達率、2030年までに100%を目指す¹

6000+

2000年以降の、低炭素化技術に関する特許出願数³

85%

アップサイクルでHPEに返却され、再使用される割合²

>600

サプライヤーに対して実施した社会・環境責任監査の件数⁴

¹HPE Living Progress Report, 2022

²HPE Financial Services Technology Renewal Center information

³ Based on HPE internal records

⁴ 2022 Living Progress Data Summary, 2023

持続可能なIT戦略の理解を妨げている誤解

1 サステナビリティはビジネスの問題であり、ITには当てはまらない

2 パブリッククラウドはオンプレミスのインフラよりも持続可能性が高い

3 技術をできるだけ長く使い続けることが、環境にとって最善である

4 私の機材は古すぎて買い取りプログラムを利用できない

5 私は設備環境がより効率的になるのを待つことができる

持続可能な ITライフサイクル実現に 向けた取り組み

HPEの実践



持続可能なITを目指す HPEのライフサイクル 全体へのアプローチ

ITライフサイクル全体で
サステナビリティへの影響
に対応

環境配慮設計

効率性と長寿命を考慮
分解、修理、リサイクルが簡単に

サプライチェーン

サプライヤー責任の取り組み
信頼できるリーダーとの
パートナーシップ

as a service

オーバープロビジョニングを防止
アジリティと効率性を実現

お客様の使用

ITインフラの最適化
エネルギーとIT関連の
無駄を削減

使用終了

資産処分からの資金調達
資産の寿命を延長

HPEのサステナビリティへの取り組み

HPE優位点のご紹介

HPEのモノづくりの差別化ポイントは「ITライフサイクル全般を考慮」し、「複雑化するサプライチェーンをきっちり管理」していることです

設計

1992年から続いているDesign for the Environment (DfE) 設計思想に基づき環境・利用上の課題に対処



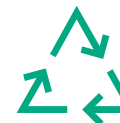
使用

HPE GreenLakeでas-a-service化を進め、ITインフラストラクチャーを最適に運用



使用終了

使用終了後も極力廃棄せずに、IT資産を回収し再利用やリサイクルすることで費用を還元



環境に優れた製品設計

1992年から続くDesign for the Environment(DfE)の設計思想

エネルギー効率

消費電力当たり性能の向上と監視

- iLO/HPE OneView
- Dynamic Power Capping

- エネルギー消費の削減
- クーリングコストの削減
- お客様の環境目標の達成



材料革新

- グローバルな環境規制へ対応
- 環境影響に配慮した材料使用

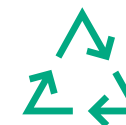
- ユーザ利用条件を想定した材料選定/リサイクルコスト削減
- サプライチェーンの95%を監査しHPEスタンダード準拠性を確認



循環型デザイン

- Recyclability Assessment Tool(RAT)によるライフサイクル試算

- 5年以上のライフサイクルを想定した製品設計
- 90%以上のHPE製品の材料は再生利用可能に



ITの効率性向上のポイント

3つのデータセンター運用ポイント

スペースを適切に設計し効率性向上

リソースと機器の負担を軽減するとともに、より少ない機器で余剰設備を削減

- データセンターコンサルティングサービス
アセット管理と分析コンサルティング



電力の制約を排除

IT運用の効率性を改善することで、エネルギーと冷却機能の使用量を削減

- AIベースの予測的分析
- IT機器・電力・冷却リソースの管理
- ハイブリッドクラウド運用



冷却方法の課題への対処

冷却方法は効率性を向上させるための重要な要素、運用費用の削減と環境負荷を軽減

- 既存・新規データセンターの負荷低減
- クーリングと性能向上



HPEのサステナビリティに対する取り組み

サステナブルな将来に向けて



製品・ソリューション

＜製品設計・使用・使用終了＞

HPEは、脱炭素社会に向けて環境負荷を削減することは、ビジネス戦略上非常に重要であると認識しています。

さらなる循環型経済の実現に向けて、テクノロジー投資を続けていきます。

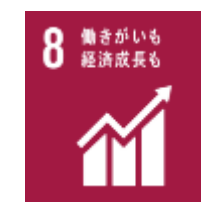
＜テクノロジーによるお客様への貢献＞

これまでの経験を活かした革新的なソリューションをご提供することで、お客様のサステナビリティゴール達成に貢献したいと考えています。

SDGsに関する取り組み

＜課題の認識と対応＞

HPEは、SDGsを社会にとっても自社にとっても重要な活動と位置付けています。



SDGsの活動を自社ビジネスに直面する課題として分類し、優先順位にしたがいしっかり対応しています。

HPEの情報開示サイト「LIVING PROGRESS」

サステナビリティと企業責任

継続的なHPEの活動が
グローバルへ影響をもたらす



「HPE Living Progressレポート 2023年度版」発行
HPEの取り組みをお客様へお伝えいたします。

[Living Progress | HPE 日本](#)

[2023 Living Progress Report \(hpe.com\)](https://www.hpe.com/living-progress-report)

付録



サステナビリティ目標の 設定と実践

HPEの実践と進捗



HPEの気候変動対策目標

HPEは、2040年までにバリューチェーン全体でネットゼロの企業になることをコミット

70%

2020-2030年のScope1&2排出量を削減



42%

2020-2030年のスコープ3排出量を削減



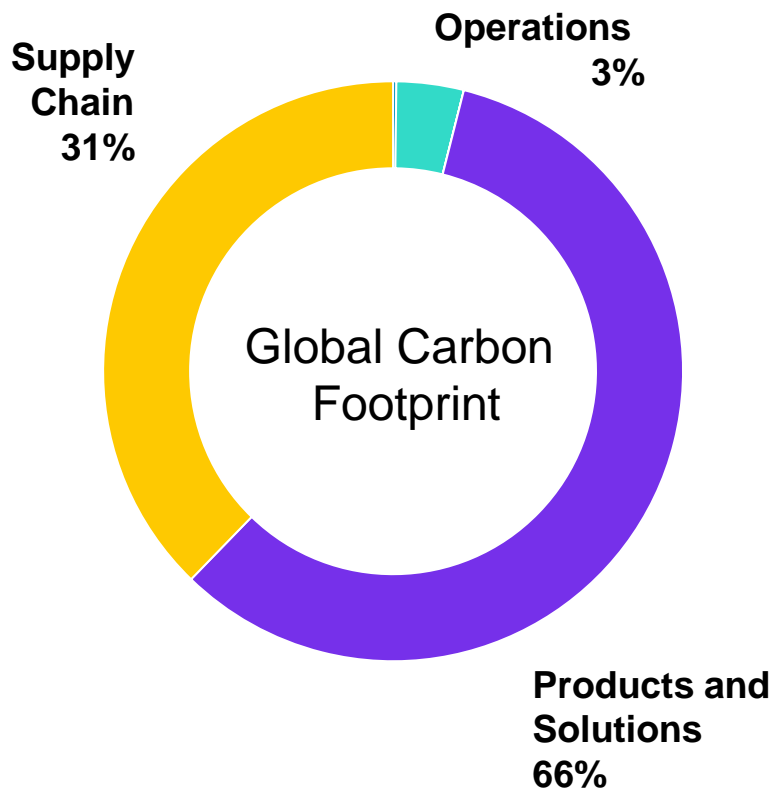
90%

2020-2040年のバリューチェーン排出量を削減



HPEのグローバルカーボンフットプリント

- 当社の生産サプライヤーの25% (支出額ベース) は、Scope1および2の科学ベースの目標を設定 (2030年までに80%の目標)
- サプライヤーの80% (支出額ベース) が利用できる排出量管理プラットフォーム



- HPEのポートフォリオの約50%に持続可能性とIT効率の属性
- HPE GreenLake製品はお客様の非効率性を平均30%削減するように構成
- HPEテクノロジーリニューアルセンターは300万を超える使用済みIT資産を処理し約85%を再利用

サステナビリティ関連の顧客関与により、最大8億4700万ドルの売上に貢献 (前年比+ 45%)

HPEはネットゼロへの移行を加速

2040年までにネット・ゼロを達成すべく、2030年中間目標を設定

2030年までに、スコープ1および2の排出量の絶対量を2020年比で70%削減

2030年までに、スコープ3排出量の絶対量を2020年比で42%削減

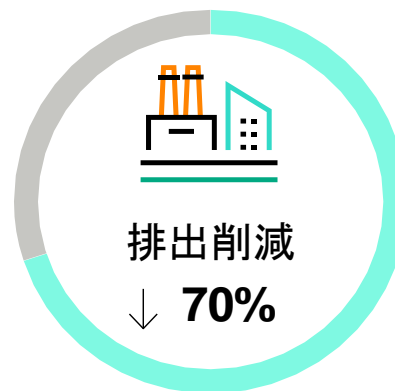
2030年までに、80%の生産サプライヤーが科学的根拠に基づく排出量削減目標を設定

2030年までに、事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーで賄う

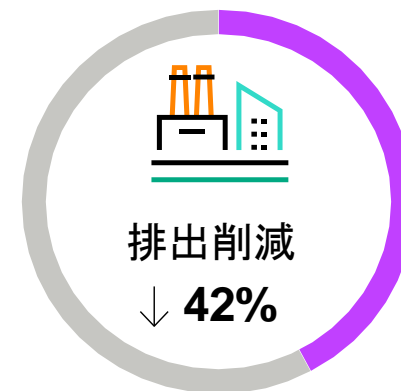


短期目標

スコープ1と2



スコープ3



長期目標

2040年までに、スコープ1、2、3の排出量の絶対量を2020年比で90%削減

Thank you

